

内 容	牛 RS 牛ウイルスに注意しましょう！	1-2
	暑熱対策で“暑い夏”を乗り切りましょう！	2-3
	STOP！！牛ヨーネ病	3-4

牛 RS ウイルス病に注意しましょう！

大家畜課 病性鑑定担当



牛 RS ウイルス病とは？

本病は、牛 RS ウイルスによる急性熱性の呼吸器病で、飛沫感染により牛群内に急速に広がり、集団発生を引き起こします。輸送や群編成などのストレスによって発症し、成牛よりも子牛で症状が重篤化しやすい疾病です。

管内の発生状況は？

今年4月に当所管内で牛 RS ウイルス病の発生が5件ありました。

A 農場では 12～32 か月齢、B 農場では 6～19 か月齢、C 農場では 25～41 か月齢の育成から初妊牛に 40℃以上の発熱、発咳、食欲不振が共通してみられました。発症牛の鼻腔スワブから RS ウイルス遺伝子が検出され、ペア血清を用いた中和試験により抗体上昇が確認されたことから、本病と診断しました。いずれの農場でも、本病のワクチン接種は行われていませんでした。

D 農場では、黒毛和種育成牛 100 頭のうち約半数に 40℃前後の発熱、鼻汁が確認されました。採材した 6 頭から RS ウイルス遺伝子及び有意な抗体上昇がみられ、うち 3 頭からはウイルスが分離されました。また 2 頭からは *Pasteurella multocida* も分離されました。この農場では 2～3 か月齢時に導入元で RS ウイルスを含む 5 種混生ワクチンが接種されていました。発生した要因として、移行抗体によるワクチンブレイクと移動、群編成によるストレスが考えられました。

E 農場では、6～8 か月齢のホルスタイン種育成牛に 40℃前後の発熱、鼻汁、発咳がみられ、その後 1～3 か月齢の哺育牛でも発熱、鼻汁を示す牛が多数みられるようになりました。検索した哺乳牛 7 頭全てから RS ウイルス遺伝子を検出し、2 頭からウイルスが分離されました。また 2 頭から *P.multocida* も分離されました。育成牛 4 頭からは、遺伝子は検出されませんでした。育成牛には 3 か月齢で 5 種混生ワクチン、4 か月齢で RS ウイルスを含む 5 種混不活化ワクチンが接種されていましたが、哺乳牛の発症は、これらのワクチン接種前でした。

治療法は？

本病の治療法は、細菌の二次感染を防ぐための抗生物質や抗炎症剤投与による**対症療法のみ**です。*P.multocida*や *Mannheimia haemolytica*が**重感染することにより重篤な化膿性肺炎に陥る恐れ**があります。今回の事例でも、数頭に *P.multocida* の感染が認められ重感染が示唆されました。

対策は？

予防対策としてワクチン接種が重要であり、疾病の発生状況、牛の飼養環境、健康状態を勘案し効果的な接種を行うことが大切です。呼吸器病のワクチンは様々市販されていますが、混合ワクチンは一度に複数のウイルス病を予防できます。

また、牛の異常を**早期に発見、治療**することで損耗軽減、牛群へのまん延防止が期待できます。**日々の健康観察を徹底**し、鼻水、咳、目やに、食べ残し、元気がない、発熱等を確認した場合には、**速やかに獣医師の診療**を受けましょう。加えて、異常のある牛は、病気をまん延させる原因になるので、**健康な牛とできるだけ離れた場所に隔離することが重要**です。**隔離と看護**により早期の回復が期待されます。

暑熱対策で“暑い夏”を乗り切りましょう！

大家畜課 大家畜衛生担当



ここ数年、夏の暑さがとても厳しくなっており、今年の夏も暑くなりそうです。採食量・受胎率の低下といった、暑熱による悪影響が心配されます。夏場も家畜の生産性を維持するために、家畜が健康で快適に過ごせる環境づくりに努めましょう。

暑熱対策のポイント

- **畜舎外から畜舎内温度を下げる**
スプリンクラー等による屋根への散水、屋根への石灰塗布（**事例 1**）、グリーンカーテン（**事例 2**）・寒冷紗（**事例 3**）の設置
- **畜舎内設備で畜舎内温度を下げる**
換気扇・扇風機による送風・換気、細霧装置による冷房、家畜への直接散水
- **体感温度を下げる**
毛刈り、飼養密度の低減
- **飼料給与法の工夫**
冷水の十分な給与、涼しい時間帯に給与、給与回数の増加（1回あたりの給与量を減少）、ビタミンやミネラルの添加

この中から、エコでお財布にもやさしい暑熱対策事例をご紹介します！

事例1：畜舎屋根への石灰塗布

石灰を水に溶かして石灰乳を作り、屋根へ塗布します。牛舎では、屋根裏温度：約15℃低下、畜舎内温度：約5℃低下といった効果が認められています。長持ちさせるために、ムラなく塗るのがポイントです！

事例2：アカザを用いたグリーンカーテン

畑などに自生している雑草のアカザを、畜舎東側と南側に移植します。成長が早く、夏季には畜舎屋根まで覆いますが、夏過ぎには枯れるため後処理も簡単です。

注意：風通しを良くするため、下部の枝や葉は切る必要があります。

事例3：寒冷紗の設置

グリーンカーテンよりも手間が掛らないのは寒冷紗です。代わりに「ひさし」や「よしず」等を使用しても効果的ですが、これらの遮光材は自然の風も遮るため、換気の効率が悪くなります。このため設置場所や角度を検討するとともに、送風装置の併用についても検討が必要です。



寒冷紗を設置した畜舎

STOP！！ 牛ヨーネ病

大家畜課 防疫担当



牛ヨーネ病って？

牛ヨーネ病は、ヨーネ菌 (*Mycobacterium avium* subsp. *paratuberculosis*) によって起こる、頑固な下痢を起こす**家畜伝染病**です。

なぜ問題なの？

ヨーネ菌は抗生物質が効かず、有効な消毒薬も限られます（石灰、塩素系、フェノール系のみ）。治療法もワクチンもありません。感染牛は発症前から菌を大量に排出するので、気付かないうちに農場内を広く汚染します。

岩手県内の発生状況は？

家畜伝染病予防法第5条に基づく検査の結果、本県の発生戸数は減少しつつありますが、全国的には発生戸数は横ばい状態、頭数は増加しています。

(1) 発生農場数

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
本県	14	5	7	3	4	1	2
全国 (頭数)	278 (465)	313 (488)	235 (456)	331 (615)	211 (405)	293 (573)	326 (783)

(2) 本県における県外導入牛の摘発状況

平成25年度は1,099頭中4頭、平成26年度は1,103頭中1頭の患畜が摘発されています。

導入牛検査を受けましょう！

岩手県では、以下のとおり県外導入牛の検査を実施しております。必ず受検してください。

1 検査

- ◆ 対象： 搾乳又は繁殖に供する目的で、県外から導入した牛
- ◆ 料金： 無料です！
- ◆ 申込み： 導入予定の1週間前までに、頭数や予定日を連絡してください
- ◆ 内容： 糞便中のヨーネ菌遺伝子の有無と量を検査します
- ◆ 材料： 導入後1週間以内に、糞便を採取して当所に搬入してください
(採取は獣医師や農協職員に依頼してください)

2 導入時の注意事項

- ◆ 確認： 導入元の農場で、ヨーネ病の発生がないことを確認しましょう！
- ◆ 管理： 導入牛は、検査結果が判明するまで(約1週間)、既存の飼養牛と接触させずに管理(隔離飼育)しましょう！



編集・発行

〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字東館41-1

岩手県南家畜保健衛生所 TEL 0197-23-3531

岩手県南家畜衛生推進協議会 TEL 0197-24-5532

FAX 0197-23-3593

FAX 0197-23-6988